【令和8年度】 エシカファーム　ガイドライン評価改善シート

事業所名：　とくら園

作成日：令和8年9月19日

本部	代表	施設長
山本	風間	風間

前年度　施設目標	前年度の改善への取り組み	「子供の活動等のスペースが十分か」･･･保護者（どちらとも言えない3名）、事業所内（どちらとも言えない1名） とくら園には園庭がないので、どうしても課題になりやすい。 しかし、うさぎ組の運動エリアを1部屋使うことにして、さらにその中にボルタリングの壁などを設置することにより、園庭がわりに子供たちが身体を使えるスペースを確保した 「父母の会の活動や･･･」･･･保護者（はい11名、どちらとも言えない3名） 保護者のニーズ（保護者同士のコミュニケーション）に合った方法を検討 「どちらともいえない」という回答があることについて…HUG等を活用し、エリア全体の構図や、実際に子どもが過ごしている様子を写真に取り、共有する/事業所内を見る機会を作る（面談時など、実際の教室を見て共有する）
	前年度の施設目標 （支援方針）	つながるとくら/つなげるとくら 事業所と保護者のつながり…保護者が知りたいこと・事業所が知らせたいことを意識した情報公開/日々の支援と家庭（園）とのつながりを意識する/日常的なコミュニケーション 保護者と保護者のつながり…保護者会の開催/保護者同士がつながるきっかけづくり 事業所と関係機関のつながり…必要に応じた情報提供と情報共有/地域の中で頼れる場・安心できる場をつくる/職員の学び（研修・コンサル） 事業所と地域のつながり…地域への情報公開/地域資源の活用 事業所と園のつながり…保育所等訪問支援

項目	保護者評価、事業所内評価を踏まえた上での共通点	保護者評価、事業所内評価を踏まえた上で相違点
環境・体制整備	○生活空間はこどもたちの活動に合わせた空間となっている	○こどもの活動等のスペースについて （保護者評価：どちらともいえない3名） →活動等のスペースについて保護者に十分な情報提供ができていないことが考えられる ○バリアフリー化が適切になされているかについて 事業所内評価：どちらともいえない5名） →保護者が事業所内を直接見る機会が少ない為、認識の違いがあるのではないか
業務改善	○職員の資質向上を行うために研修の機会を確保している	
適切な支援の提供	○こどものことを十分に理解し、特性等に応じた専門性のある支援が行われている ○児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○支援前後の打ち合わせが不十分である
関係機関や保護者との連携	○保育所や認定こども園、幼稚園との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会が不足している	
保護者への説明責任等	○家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われている ○こどもや保護者との石の疎通や情報伝達のための配慮がある/日頃から子どもの状況を保護者と伝えあい、子どもの発達の状況や課題について共通理解をもっている	○父母の会の活動や、保護者会等の開催により保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援/きょうだい向けのイベントうの開催等、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援が不足している
非常災害等への対応	○事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されている。また訓練が実施されている。 ○非常災害に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われいている	
支援プログラム	○事業所の活動プログラム化固定化されないよう工夫されている	

分析件等してみての事業所の強み	分析検討してみての事業所の改善点
・職員向けの研修が充実している ・保護者との円滑なコミュニケーションがとれている ・保護者が事業所の取り組みや支援について理解を示してくれている	・こどもの活動等のスペースの確保 ・保護者への情報提供の方法や質の見直し ・保護者会の回数の不足や方法の見直し ・支援についての打ち合わせや情報共有の方法を検討 ・”どちらともいえない”の回答が少々みられる。日々の様子等、保護者との情報共有を密に行っていく

評価を行っての事業所としての感想など

・昨年よりも解答率が高く、ほとんどの保護者の方がご回答くださった。

・反面、「どちらともいえない」の回答も少々みられたので、日々の情報共有を密に行っていきたいと思う。

今回保護者から頂いたご意見を職員間で共有し、改善への努力を続けていきたいと思う。

今年度　施設目標	改善への取り組み	・こどもの活動等のスペースの確保 →地域資源の活用（近隣の保育所の園庭、児童館、公園等） ・保護者への情報提供の方法や質の見直し →HUG（サービス提供記録）にて、日々の支援の様子を「目的」「支援内容」「本児の姿」の項目別に整理して伝えている。 ・保護者会の回数の不足や方法の見直し →保護者のニーズを踏まえ、保護者同士の交流やきょうだいも参加できる方法を検討・実施（6月：エシカファームイベント内で実施/2月：パン作り教室） ・支援についての打ち合わせや情報共有の方法を検討 →LINE　Worksにてクラスごとのグループを作成/ホワイトボードを使用し、日々の情報共有を行うようにした
	施設目標 （支援方針）	育ちを支えるチーム作り ・事業所内…根拠のある支援と協働 ・保護者同士…保護者同士の繋がりづくり ・地域のチーム…地域資源の活用と情報公開/関係機関との連携